



在北海道各国総領事に聞く⑤

在札幌ロシア連邦総領事

シェフチュウツク・レオニード氏

の5回目は在札幌ロシア連邦総領事館のシェフチュウツク・レオニード総領事。聞き手は本社顧問の石子彭培。

——いよいよ北海道洞爺湖サミットが始まる。今回のサミットで、何を期待するか。

レオニード サミットは参加国にとっても世界にとっても大変重要なイベントだ。サミットの場では世界で一番重要な問題が討議され、打開策の探究が行われるという意味で、大きな期待をしている。

北海道洞爺湖サミットが7月7～9日に開かれる。日本における5回目を、在北海道の各国総領事のサミットで、舞台となる北海道は世界にその存在をアピールするまたとの提言を聞いた。最終回



環境問題が主題になると思うが、特に強調しておきたいのは、北海道は環境問題を討議するのに適切な場所だということだ。北海道の人々は自然を大切にしており、世界の模範になる地域・場所だからだ。

オゾンホール破壊など地球温暖化の問題も取りざたされているが、まずこの環境をどのように大事にしていけばいいのか。大きな問題を免れる方法を見いだして具体的行動をとる必要がある。地球に住む皆さん1人ひとりが行動しなければ解決できないだろう。

洞爺湖は大変素晴らしい湖だ。その中の中島にも遊覧船で行ったが、そこも自然豊かなところだ。世界の首脳陣も気に入ると思う。

——北海道の印象はどうか。

レオニード 私は日本に22年間いて、そのうち北海道には4年しかいないが、非常に印象深い場所だ。その中で、北海

道の人は特別だと感じだろう。北海道の人たちは歴史も伝統も違うが、ロシア人とも共通性があると思う。一言で言えば、開拓者の精神だ。

なぜ、そう感じたかというところ、この部屋にある彫刻は苦小牧でいただいたものだ。これは日本人が北海道の開拓を始めてから、初めて子どもを産んだ女性の彫刻だとい

う。列車も自動車もなく、自分の足で長い距離を歩かなければならなかった。厳しい時代に、子どもを道にたくさんの町に行っても生きていけるという母親の表情、開拓者の精神が出てくる。これは本当に心打たれる姿だ。

北海道の人はお互いに協力する精神を持っており、これがないと新しい土地の開拓は難しかった。その函館でロシア領事

う。列車も自動車もなく、自分の足で長い距離を歩かなければならなかった。厳しい時代に、子どもを道にたくさんの町に行っても生きていけるという母親の表情、開拓者の精神が出てくる。これは本当に心打たれる姿だ。

「人」と「自然」が宝物

誘客へPRと交流が不可欠

直接関係していたところ。今、ロシアの経済状況は悪くないから、外国に行ける人数が増えて、日本ものことも含めて外国の観光客を増やす必要がある。北海道ではすでに実現していることもあるが、観光客を増やすためにはもっとPRと交流が必要だ。

また、新幹線にも期待している。新幹線が北海道にきたら、経済が必ず活気づくと思う。それから自動車道の整備。これからますます多くの自動

車がある。逆にあえて、もっと道路を広くすべきだ。これは経済の問題にかかわるので、専門家に任せなければならないが、道路網をつなげるとか、道路そのものを広くすることを考えるべきだ。

その役割を北海道の人たちには果たしていると思う。

——北海道はサミット

を契機として、外国からの観光客を増やしたいと思う。どこに力点を置いたらよいか、考えを聞かせてほしい。

レオニード やはりPRが必要だと思う。日本とロシアの関係について言えば、大きな課題のひとつとして、お互いのことをもっとよく知るといふ努力が必要だ。

今、ロシアの経済状況は悪くないから、外国に行ける人数が増えて、日本ものことも含めて外国の観光客を増やす必要がある。北海道ではすでに実現していることもあるが、観光客を増やすためにはもっとPRと交流が必要だ。

また、新幹線にも期待している。新幹線が北海道にきたら、経済が必ず活気づくと思う。それから自動車道の整備。これからますます多くの自動

車がある。逆にあえて、もっと道路を広くすべきだ。これは経済の問題にかかわるので、専門家に任せなければならないが、道路網をつなげるとか、道路そのものを広くすることを考えるべきだ。

車がある。逆にあえて、もっと道路を広くすべきだ。これは経済の問題にかかわるので、専門家に任せなければならないが、道路網をつなげるとか、道路そのものを広くすることを考えるべきだ。

旧ソ連時代の日ロ貿易の取引額は年間60億ドルだった。しかし、まだ日米貿易や日中貿易ほどではないが、昨年は130億ドル、今年は185億ドルまで上がった。今はヨーロッパよりもロシアの方が経済発展しているのだから、これからは日本との貿易が増える可能性は非常に高いと思う。観光を盛んにして、同時に経済交流を進めれば、さらに観光客が増える可能性は十分あると思う。

シェフチュウツク・レオニード氏 1946年、ウラジオストク市生まれ。ウラジオストク極東国立大卒。71年在日本国ソビエト連邦(現ロシア連邦)大使館勤務。在日国ロシア連邦大使館参事官、ロシア連邦外務省日本部長などを経て、04年9月から在札幌ロシア連邦総領事。